

内閣府青年国際交流事業
既参加日本青年フォローアップ調査
報告書

平成 29 年度 (2017 年度) 及び令和 3 年度 (2021 年度)
内閣府青年国際交流事業既参加日本青年

一般財団法人 青少年国際交流推進センター
令和 4 年度 (2022 年度)

<目 次>

| | |
|-----------------|----|
| 第 1 調査の概要..... | 2 |
| 1. 調査の目的..... | 2 |
| 2. 調査の時期..... | 2 |
| 3. 調査の対象者..... | 2 |
| 4. 調査事項..... | 2 |
| 5. 調査の方法..... | 3 |
| 6. 調査の委嘱..... | 3 |
| 第 2 回答者の特性..... | 4 |
| 第 3 調査結果..... | 5 |
| 第 4 付録..... | 51 |

第1 調査の概要

1. 調査の目的

内閣府では、青少年育成の一環として、昭和34年以来、数々の青年国際交流事業を継続して行ってきた。これらの交流事業は、日本と諸外国の青年相互の理解と友好の促進、国際性を備えた青少年の育成及びその経験をいかした成果の地域・職域等への還元を図ることを目的として実施されている。

このような青年国際交流事業の趣旨を踏まえ、参加青年が事業に参加後、一定の時間が経過した時点で国際交流等に関しどのような認識を有しているか、また、実際の事後活動がどの程度の規模・頻度でどのように行われているか等、事業の諸効果を的確に把握するため、国際交流事業に参加した青年の意識や事後活動の実態、参加意欲などを調査し、もって今後の青少年に関する各種施策の推進に資することを目的とする。

2. 調査の時期

令和4年(2022年)12月27日(火)～令和5年(2023年)1月26日(木)

3. 調査の対象者

平成29年度(2017年度)及び令和3年度(2021年度)内閣府青年国際交流事業

日本参加青年528名

(団長、副団長、渉外、ナショナルリーダー、サブナショナルリーダーを除く)

<内訳>

平成29年度(2017年度)

| | |
|------------------------------|------|
| ・国際青年育成交流事業 | 40名 |
| ・日本・中国青年親善交流事業 | 21名 |
| ・日本・韓国青年親善交流事業 | 25名 |
| ・地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」 | 23名 |
| ・「東南アジア青年の船」事業 | 38名 |
| ・「世界青年の船」事業 | 125名 |
| 合計 | 276名 |

令和3年度(2021年度)

| | |
|-----------------------|------|
| ・国際社会青年育成事業(オンライン) | 31名 |
| ・日本・中国青年親善交流事業(オンライン) | 24名 |
| ・日本・韓国青年親善交流事業(オンライン) | 12名 |
| ・「東南アジア青年の船」(オンライン) | 24名 |
| ・「世界青年の船」事業(オンライン) | 39名 |
| 合計 | 130名 |

4. 調査事項

- (1) 青年国際交流事業への参加による意識の変化
- (2) 青年国際交流事業の成果
- (3) 成果の社会への還元方法
- (4) 青年国際交流事業の在り方(プログラムの内容、構成等)
- (5) 事業終了後の既参加青年のネットワークへの参加の程度

5. 調査の方法

- | | | |
|---------------------|-----------------------|--|
| (1) 質問票の発信 | 令和4年(2022年)12月27日(火) | |
| (2) 回答締め切り | 令和5年(2023年)1月26日(木) | |
| (3) 連絡先把握数 | | |
| ・平成29年度(2017年度)参加青年 | 185名 | |
| ・令和3年度(2021年度)参加青年 | 125名 | |
| (4) 回収数及び回収率 | | |
| ・平成29年度(2017年度)参加青年 | <u>113通(回収率61.1%)</u> | |
| ・令和3年度(2021年度)参加青年 | <u>83通(回収率66.4%)</u> | |

6. 調査の委嘱

調査事項の設定は、内閣府青年国際交流担当室が行い、質問票の企画、調査の実施、集計結果分析及び結果報告書の作成を一般財団法人青少年国際交流推進センターに委嘱した。

※本書を読む際の注意

1. 比較の数値(パーセンテージ)は、小数第二位を四捨五入し、少数第一位までとする。
2. 0人、0%は該当者がいないことを示す。
3. 図表においては、回答分の一部(原則として後半部分)を省略している場合がある。正確な回答分は回答部分によって確かめられたい。

第2 回答者の特性

問1. あなたが参加した事業名は何ですか。

| 平成29年度 | 回答数 | 連絡先把握数 | 回収率 |
|---------------------------------|---------|---------|-------|
| 国際青年育成交流事業 | 9 (名) | 18 (名) | 50.0% |
| 日本・中国青年親善交流事業 | 4 (名) | 8 (名) | 50.0% |
| 日本・韓国青年親善交流事業 | 8 (名) | 12 (名) | 66.7% |
| 地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」 | 6 (名) | 17 (名) | 35.3% |
| 「東南アジア青年の船」事業 | 25 (名) | 32 (名) | 78.1% |
| 「世界青年の船」事業 | 61 (名) | 98 (名) | 62.2% |
| 合計 | 113 (名) | 185 (名) | 61.1% |
| 令和3年度 | 回答数 | 連絡先把握数 | 回収率 |
| 国際社会青年育成事業 (オンライン) | 18 (名) | 27 (名) | 66.7% |
| 日本・中国青年親善交流事業 (オンライン) | 17 (名) | 24 (名) | 70.8% |
| 日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン) | 6 (名) | 11 (名) | 54.5% |
| 「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン) | 17 (名) | 24 (名) | 70.8% |
| 「世界青年の船」事業 (オンライン) | 25 (名) | 39 (名) | 64.1% |
| 合計 | 83 (名) | 125 (名) | 66.4% |